

科目ナンバー	TOU-A-2-01		
授業コード	40001		
科目名	むさしの学		
担当者	一條 三子		
開講期	2022年度春学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	1年	単位数	2単位
曜日/時限	水曜4限	授業の方法	講義
授業題目	新座市を中心とした武蔵野一帯の歴史・文化・産業と今後の展望		
授業の達成目標	<p>本学の立地する新座市は武蔵野台地の一角を占める。「武蔵野」の具体的なエリアや自然・地理、歴史・文化、典型とされる景観を探り、「武蔵野」以前の景観や歴史、そして「武蔵野」の面影が失われていく経緯とその結果としての現況を主体的に学び実感する。そうした学習を通してこの地域のコミュニティや観光のあるべき姿を自ら考え文書にまとめプレゼンテーションを行って相互に批評しあうことで、より高い企画力の育成をめざす。</p>		
今年度の授業内容	<p>「新座」の地名の由来は武蔵野の景観が出現する数百年前まで遡る。さらに、「新座」が出現する一万数千年前から川に囲まれた武蔵野台地を中心に人々は生活を営んでいた。それらの遺跡や遺構、遺物、伝承等が市内各地に遺されている。一方、近年は鉄道の敷設等によって地域の特性が様変わりした。原始古代から現代までのこの地域の変遷を学ぶことで、豊かな地域資源と克服すべき課題を探り当て、この地域ならではの観光、コミュニティの構築を追究する。</p>		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間について	<p>授業で紹介する文献や書籍、資料等を用いて予習復習するほか、フィールドワークや資料館等の見学を通して地域の諸相にじかに触れてほしい。毎回、授業後に感想をポータルに提出するが授業終了から数時間の余裕を持たせるので、それらの自学した成果を感想に織り込むことを期待する。</p>	合計60時間	
自習に関する一般的な指示事項	<p>配布資料を熟読し、インターネット等で情報を補充して当該授業のテーマについて主体的に学習に取り組む。</p>		
授業スケジュール			
第1回	<p>授業ガイダンス：「むさしの学」のめざすものは何か、「武蔵野」のイメージと具体像について意見交換し、「武蔵野」という地域を具体例として「地域を学び地域に学ぶ」意義について考える</p>		
第2回	<p>武蔵野の歴史① 原始・古代 本キャンパスをはじめ新座市内や現在の埼玉、東京周辺各地の地層、遺跡から浮かび上がる武蔵野台地の黎明期</p>		
第3回	<p>フィールドワークの勧め：昨年度受講生の「ご近所紹介」プレゼンテーションの紹介 歴史や社会的課題を学ぶダークツーリズムについて考える</p>		
第4回	<p>武蔵野の歴史② 古代社会の広がり：朝鮮半島諸国、畿内王権、東北地方などとの政治的関係、人の往来 武蔵野の歴史③ 古代から中世へ：歌に詠まれた武蔵野、「いざ鎌倉へ」を彷彿させる鎌倉道</p>		
第5回	<p>武蔵野の歴史④ 江戸幕藩体制 川越藩主松平信綱がつくった「武蔵野」の原風景、玉川上水と野火止用水の歴史と現状</p>		
第6回	<p>武蔵野の民俗：神社・仏閣や石仏、伝承などから浮かび上がるいにしえの人々の暮らし、信仰</p>		
第7回	<p>水と人々の暮らし：湧水や市域を流れる河川等（柳瀬川、黒目川、野火止用水）と人々との共生について考える</p>		
第8回	<p>受講生のフィールドワーク実践例の紹介① 意見・感想を寄せ合い各自の認識を深める 授業形態によってはオンライン形式のプレゼンテーションも想定される</p>		
第9回	<p>受講生のフィールドワーク実践例の紹介② 意見・感想を寄せ合い各自の認識を深める</p>		
第10回	<p>フィールドワーク実践例の発表から学ぶこと（前回までの意見、感想を通して） 武蔵野の歴史⑤ 近代国家建設：幕藩体制の終焉と明治新政権の誕生がもたらした社会の変化</p>		
第11回	<p>武蔵野の変容① 鉄道敷設にともなうモノの流れ、ヒトの往来の変化</p>		
第12回	<p>武蔵野の変容② 産業構造の変遷にともなう社会の変化と景観の変貌</p>		
第13回	<p>武蔵野の災害の歴史：災害を視野に据えた観光、コミュニティづくり</p>		
第14回	<p>武蔵野、特に新座市の未来像：武蔵光デザイン学科は地域興しを目的とした観光モデルコース コミュニティデザイン学科はあるべきコミュニティ構想を考える</p>		
第15回	<p>授業のまとめ 小論文作成</p>		
授業の運営方法			

	原則として授業で配布するレジュメとパワーポイントで提示する資料を用いて講義する。配付資料に関してはポータル「課題提示」にも配信する。遠隔授業の場合はリアルタイムにMicrosoft Teamsで実施するので「クラスの資料」に配信した資料を用いる。(チームコードは後日連絡する)	
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	1. 毎回、ポータルの「課題提出」に、授業の最後に出す小問の回答及び授業感想を提出する。これに対して、講師はその週のうちにコメントを書くので確認すること。 2. 第3回でフィールドワーク等の課題を指示、成果をパワーポイント等にまとめ第8回以降の授業で発表する。	
成績評価の方法 ※次の評価基準・割合に基づき評価されます。		
評価の種類	割合(%)	評価方法、評価基準
定期試験	0%	実施せず
小論文・レポート	50%	第8回授業で発表するレポート及び第15回授業で作成する小論文を3:2の割合で評価する
授業参加	50%	授業に対する積極的な姿勢及び毎回提出の感想に対する評価の合計
テキスト		
参考文献	『新座市史』(第1~第5巻)、『野火止用水・平林寺の文化的景観保存計画』など	
関連ページ	新座市役所をはじめ埼玉県南部を中心とした各自治体HP、東京都練馬区、武蔵野市、小平市など埼玉県に隣接する都内各自治体HP、埼玉県、東京都各地の歴史資料館などのHP	
その他、履修生への注意事項	遠隔授業、ハイブリッド授業の場合はMicrosoft Teamsを用いたリアルタイム方式とする。 遠隔受講生、対面受講生ともに最終出席確認は毎回最後に実施する小テスト(感想含む)の提出の有無で行う。提出はポータルの「課題提出」を使う。 通常授業では出席確認は教室で行うが、感想等の提出は授業日のうちにポータルの「課題提出」に提出する。	
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
実務経験のある教員による授業科目(令和2年度から該当科目に記載されます)		
実務経験の概要	埼玉県公立高校の地域史研究部顧問として生徒とともに高校所在地はじめ県内各地をフィールドワーク 埼玉県比企郡内3町村自治体史の編纂事業に調査、執筆担当として参加し県内各地をフィールドワーク 宮城県石巻市のNPO法人の活動支援等を兼ねて宮城県内各地をフィールドワーク	
実務経験と授業科目との関連性	埼玉県や宮城県各地をフィールドワークし地域住民に取材するなどして得た「地域を学び、地域に学ぶ」姿勢や情報を伝える。	